

国際金融パネル：望ましいアジア通貨制度のあり方について

問題提起

経済産業研究所 吉 富 勝

東アジアにとって望ましい為替制度については次の論点が重要である

(吉富 勝『アジア経済の真実』、2003年 東洋経済新報社、pp.297～316、及び pp.341～358 参照)

I. 中間的制度（固定制と完全フロートの間）が望ましい理由

- (a) “Fear of Float” はどこまで東アジアにあてはまるか
- (b) 国内の資本市場の浅さ、狭さなどが短期的な激しい為替変動を生むか
- (c) 為替レートの短期的変動は 貿易 / GDP 比率が非常に高い経済の発展を阻害するか

II. 中間的為替制度の実際的機能

- (a) 中心レート（reference rates）になる通貨バスケットの中の currency を選ぶ基準は何か
 - (1) \$, Euro, Yen、主要アジア通貨：つまり実効為替レートによる中心レートが国際競争力を反映するようにする
 - (2) 将来、Asian Common Currency の形成を望むならば、バスケットの中はアジア通貨だけであるべき（EURO の場合と同じ）。どういう条件の下でこれは可能か
 - (3) アジア通貨だけでバスケットが形成される場合、アンカーは何か。日本円か（EURO 形成過程では独マルク）
- (b) 中心レートの回りのバンドの幅を決める要因は何か。
 - (1) はじめは上下それぞれ 5%、それを 10%, 15%.....
そうして完全フロートに移るときの条件は何か
 - (2) アジア通貨が完全フロートの方や向かう場合、Asian Common Currency 形成との関係はどう考えるべきか

III. 東アジアの為替制度と最後の貸し手

- (1) バンドの範囲内に収まる為替介入政策のあり方
- (2) マクロ経済政策協調のあり方

「資本収支危機」が生じたとき、バンドの下限を守るのに、アジア地域の最後の貸し手が必要か